

令和4年度

学校自己評価報告書

令和5年5月

久留米大学医学部附属  
臨床検査専門学校

## 令和4年度学校自己評価について

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校は、創立55年の歴史と伝統を持つ学校です。医学部附属の特長を活かし、時代のニーズに合った講義の充実と実践的な技術養成のため実習重視の教育によって、医療人そして社会人として必要な豊かな人間性を育み、医療の現場の最前線で活躍できる臨床検査技師の育成を目指して参りました。

本校ではその取り組みの中で、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に評価項目を見直し、現状と課題の把握及び改善策の検討・実施を行っています。

評価は、学生による教員評価アンケート、新卒者の臨床検査技師国家試験の合否結果と就職状況、臨地実習指導者会議及び保護者の会役員会での結果なども参考にして行っており、この学校自己評価の結果を生かし、今後も更なる教育の質の向上を図りたいと考えています。

なお、本校は4年制大学へ移行し、2024年（令和6年）に医学部内に『医療検査学科』に設置する予定です。このため、2023（令和5）年度の入学試験はこれまで通り実施しましたが、2024（令和6）年度以降の入学者の募集を停止し、2025（令和7）年度末で閉校する予定です。在校生及び令和5年度の入学生への教育・学校生活、国家試験対策、就職支援について責任を持って全力で指導する所存ですので、みなさまのご理解とご支援のほどお願い申し上げます。

### 1. 対象期間

令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日

### 2. 実施方法

- (1) 「久留米大学医学部附属臨床検査専門学校教務会」の学校長、教務主任、専任教員及び事務職員によって評価を行う。
- (2) 委員構成  
議 長：校長  
委 員：臨床検査専門学校 教務主任、専任教員及び事務職員  
評 価：「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行う。
- (3) 評価は、年一回5月に行う。
- (4) 評価結果の公開は、報告書をホームページに掲載することによって行う。

### 3. 自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目を実施する。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

### 4. 評価項目に対する評価

評価は、以下の4～1の点数で評価記載。

**4:適切、3:ほぼ適切、2:やや不適切、1:不適切**

### 5. 自己評価結果（令和4年度）

#### (1) 教育理念・目標

##### ① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	学校の理念・目的・育成人材像は明確であるか	4
b	学校における職業教育の特色は何か	4
c	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
d	教育目標、育成人材像は、業界のニーズを踏まえているか	3

##### ② 状況及び課題と改善策

- a. 学校の教育の理念・目的・育成人材像については明確に定められ、シラバス、学校・入試案内パンフレット、ホームページ上に公開している。
- b. 教育目標には「時代のニーズに合った講義の充実」、「実践的な技術養成のため実習重視」を挙げている。医学部附属である特徴を生かして医学部および大学病院の講師陣約150名による指導体制の下、実習時間を十分に確保することにより、3年間の修業年限で卒業後に即戦力となり得る人材の育成を図っているのが特色である。
- c. 本校の母体である久留米大学は、次世代型臨床検査技師の育成へ対応するための将来構想として、本校の発展的改組を行うことを決定し、医学部内に医療検査学科（仮称）を設置する方針を決定している。新学科の令和6年度開設を目指し、令和5年5月の時点で、文部科学省に学科設置認可申請中である。  
新学科では、本大学の特色を活かして医学部と附置研究所、および文系学部  
の教育研究力を活用し、質の高いメディカルテクノロジー（臨床検査）教育、

医学部連携プログラムによる多職種連携教育、全学的文医融合プログラムによるヘルスサイエンス（健康科学）教育を行い、社会のニーズに対応し医療や医学研究へ貢献することができる臨床検査技師の養成を目的としている。

学科移行に伴い、令和6年度以降は本校の入学者募集を停止することとなった。

- d. 教育目標、育成人材像については、医療業界のニーズを踏まえて作成されている。学校は、久留米大学医学部と大学病院、学外の臨地実習先と密に関わり、日本臨床検査学教育協議会に所属して最新の臨床検査技師養成の動向を入手するなどにより、現場のニーズを感知できる体制づくりをはかっている。

令和3年10月には、医師の働き方改革に基づく臨床検査技師の業務拡大（タスク・シフト/シェアリング）を定めた法改正が施行され、令和4年度以降の入学生対象の臨床検査技師養成カリキュラムも改正された。当該年度の2年次、3年次には従来型カリキュラムが適用されたが、これらの学年にもタスク・シフト/シェアリングの情報は随時、講義で紹介し、かつ、新カリキュラムで新たに教育すべき必須項目となった一部のトピックス（『認知症検査』、『病理診断における遺伝子解析の意義』など）について概説を学ぶ授業を設けるなど、社会の動向を反映させた教育内容へとアップデートを行っている。

## (2) 学校運営

### ① 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	目的等に沿った運営方針・事業計画が策定されているか	3
b	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
c	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3

### ② 状況及び課題と改善策

- a. 本校が所属する久留米大学では、建学の精神を「国手の矜持は常に仁なり」と定め、各分野での優れた実践的人材（国手）の育成に努めている。本校においても、医学部附属の機関として、目的に沿う運営方針、事業計画を策定している。

- b. 本校の管理運営を円滑にはかるため、学校長の諮問機関として運営委員会を設けており、内規を定めて運用している。運営委員会の委員は、学校長、教務主任、講師会の幹事、医学部長、附属病院長、臨床検査部長、事務局長および医学部事務部長をもって組織しており（久留米大学医学部附属臨総検査専門学校運営委員会内規第2条）、学校運営における意思決定機関として有効に機能している。

- c. 教育活動等に関する情報としては、教育目標、教育課程モデルプラン、授業計画（講義シラバス）、試験と成績評価法、実務経験のある教員等による授業科目一覧表をホームページ上に公開している。

### (3) 教育活動

#### ① 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
b	教育理念、育成人材像やニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
c	カリキュラムは体系的に編成されているか	3
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
e	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
f	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
g	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

#### ② 状況及び課題と改善策

a. 教育課程の編成・実施方針等は、教育理念等に基づき策定されている。

b. 育成する人材像やニーズを踏まえた臨床検査科としての教育到達レベルについては、シラバスやホームページなどに示している。これまで、本校独自の教育目標を達成するために、臨床検査技師国家試験受験資格に必要な単位数を上回るカリキュラム（118単位、うち臨地実習11単位）を設定してきた。

令和4年度以降の入学生から適用される臨床検査技師学校養成所指定規則、および臨床検査技師養成所指導ガイドラインでは、従来型カリキュラムには含まれていなかった教育内容が追加されたが、新カリキュラムにおいても卒業までの総単位数は118単位（うち臨地実習11単位）にとどめている。カリキュラム改訂にあたっては、学生の自学自修時間を確保して履修内容の理解を深められるよう、各科目責任者と協議を行って学習内容と履修順序などを見直すことにより、授業のスリム化と効率化を図った。

c. カリキュラムは、教養を含む基礎分野、専門基礎分野、専門分野が体系的に履修できることをねらいとして編成され、シラバスに明示している。カリキュラム体系図としても可視化し、ホームページ上に示している。

d. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムが編成され実施されている。近年、社会・医療のニーズとして注目されているチーム医療へ参画するための教育としては、接遇研修や臨地実習にて機会を与えている。

また、令和4年度には、久留米市内で開催された第54回日本婦人科病理学会（6月）、第64回日本婦人科腫瘍学会（7月）、第56回日臨技九州支部医学検査学会（11月）への参加案内を行い、いずれの学会にも希望する学生が参加して見聞、学びを広げた。また、第56回日臨技九州支部医学検査学会では、学生フォーラム「臨床検査技師の未来」にて、2年生1名が演者として発表する機会を設けた（資料1参照）。

- e. 学校自己評価に対する外部関係者の評価については、令和2年度から校長、および外部関係者から構成される学校評価委員会を毎年開催することと定め、実施している。

また、臨地実習終了後に臨地実習指導者会議を行うことにより、臨地実習先の各病院から、その年派遣した学生に関する講評、および本校での学生教育の在り方についての評価と助言をいただいている。令和4年度も、オンライン形式で臨地実習指導者会議を実施し、臨地実習の在り方についての意見交換を行い、次年度の実施条件等について協議した。

- f. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められ、シラバス、学生と保護者に配付される「学生生活」に明記し、ホームページ上にも公開している。

- g. 【学外における研修会・講演の受講、学会参加】

令和4年度は、以下の学外の研修会、講演等を受講して、臨床検査学の各分野における教育研究についての新しい知見を得るとともに、令和4年度以降入学生対象の新カリキュラムの在り方（臨地実習関連を含む）についての研修を行った。

- 日本臨床検査学教育協議会の総会（4月）・臨時総会（12月）における教員研修会のWeb受講。
- 第16回日本臨床検査学教育学会学術大会（8月 埼玉医科大学にてハイブリッド開催）
- 第56回日臨技九州支部医学検査学会（11月 久留米シティプラザ）

他にも、教員の専門領域に基づき、糖尿病療養指導士の講習会、日本婦人科病理学会、日本婦人科腫瘍学会、International Gynecologic Cancer Society (IGCS) 2022 Annual Global Meeting（ニューヨーク ハイブリッド開催）へ参加し、研鑽を積んだ。

#### 【論文発表、学会発表、学位取得】

教員の研究・教育活動の成果として、原著論文3編が受理され、教員による学会発表4件、学生による学会発表1件が行われた。また、令和3年度末日から令和4年度にかけて、1名が博士（医学）、2名が修士（医科学）の学位を取得した。

#### 【学生による授業評価アンケート】

令和4年度より、授業終了後の学生による授業評価アンケートの対象を全授業科目に拡大し、授業と講師の対応に関する4段階評価、および自由記述によるフィードバックを調査した。各講師には、アンケート結果を今後の授業の質向上に役立てていただくため、年度終了時に各講師へ送付した。

#### 【久留米大学が実施する研修会等】

本学の指針に基づき、教職員は研究倫理やハラスメントに関するeラーニング、また、医学部教員、事務職員を対象とする久留米大学eラーニングプラットフォーム(Hondana)の対面講習会などを受講した。また、1名は修士取得後、令和4年度も久留米大学バイオ統計センター公開セミナーに継続的に参加して

いる。

#### (4) 学修成果

##### ① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	資格取得率の向上が図られているか	4
b	就職率の向上が図られているか	4

##### ② 状況及び課題と改善策

a. 令和4年度での臨床検査技師国家試験合格率では、新卒者100% (27名中27名合格) を達成し、全国新卒者平均89.5%を大きく上回った。また、既卒者の全国合格率は29.3%であったが、本校既卒者合格率は80.0% (5名中4名合格) であった。

その他の資格においては、毒物劇物取扱責任者の資格を40名 (1年35名、2年5名)、第2種ME技術実力検定試験を2名 (2年)、日本不整脈心電学会による心電図検定では2級1名 (2年)、3級8名 (2年)、4級7名 (2年)、日本電子顕微鏡学会による電子顕微鏡技術認定試験の資格を1名 (2年) が取得した。

b. キャリア教育については接遇研修、模擬面接指導、学校での企業説明会を随時実施しており、学生の就職活動支援についても、個々の面接試験に先立って担任を始めとした専任教員が履歴書の添削や模擬面接に応じた。なお、令和4年度卒業生においても、希望する学生全員が就職を実現することができた。

#### (5) 学生支援

##### ① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
e	保護者と適切に連携しているか	3
f	卒業生への支援体制はあるか	4

##### ② 状況及び課題と改善策

a. 進路・就職に関する支援体制は整備され、接遇研修や面接指導なども適時実施している。一昨年度前に、求人情報を電子化して学外からもアクセス可能とし、学生の利便性を図っている。また、オンライン就職面接で使用できるパソコン、ネットワークを完備した部屋を提供している。

b. 学生相談については、保健管理センターに学生相談室及び学生支援室が設置され、各曜日に精神科医や臨床心理士が相談に応じる体制が整備されている。

また、日頃から学年担任・副担任が連携して学生の出席状況や体調の変化などを把握し、体調不良、悩みがありそうな学生へは早めに声をかけるよう努めており、専任教員や事務職員との情報共有も行っている。必要に応じて保健管理センターの相談窓口を紹介している。

医学部学生委員会の下部組織として医学科・看護学科・本校の教員と学生から構成される『学生生活支援部会』においては、学生が直面する学修・経済・精神面の負担を学生から適宜聞き取り、教職員を交えて対応策を講じた。6月には学生アンケートで本校学生の学校生活への要望等のニーズ調査を行い、その集計と共に学校としての回答も作成し、学生へのフィードバックも行った。

- c. 令和2年度から始まった「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として認定され、令和4年度は13名の学生が入学金・授業料減免を受けることができた。また、その他にもコロナ寄付金を原資とした各学年での食料支援（6～9月に1回2,000円/人分）や外部団体からの支援（久留米市社会福祉協議会）を通じた食糧支援を行った。
  
- d. 本校が設置されている本学旭町キャンパスには保健管理センターがあり各学生のメンタル面を含めた健康管理が行われている。必要に応じて保健管理センターと各学年担任が連携し、各学生のフォローを行っている。

令和2年度から新型コロナウイルス感染症拡大状況に応じた校内外での感染対策指針を適宜、メール、eラーニングプラットフォーム（Hondana）およびホームページ上で周知している。令和4年度においても、学生には毎朝体温測定してHondanaに入力することを義務付け、担任が各学生の体調を把握し、体調不良者への指導および保健管理センターへの相談を行っていた。また、サーモグラフィカメラを利用して学生や教職員の日常の体温をチェックし、入試や卒業式などでの来場者の体温チェックに活用した。

また、校内での新型コロナウイルス感染拡大防止策として、体調不良時、本人や同居者が濃厚接触者やコロナ陽性者（疑いを含む）となった時には、平日休日に関わらず、すみやかに担任から保健管理センターへ連絡を取り、センターの指示の下に該当学生および接触学生への自宅待機等の指導を行う体制を構築している。
  
- e. 保護者の会役員会・総会を開催し、学生の教育、施設運営、その他必要と認められた諸活動についての理解を得ることができた。なお、保護者面談については保護者の会開催日だけではなく、成績不振者に対しても随時必要に応じ対面又はオンラインで実施した。
  
- f. 同窓会と協力し、ホームページ等を利用した卒業生への情報提供を行っている。また、国家試験不合格であった既卒者への学習支援を行い、前年度の国家試験不合格者4名全員が合格するという成果も挙げることもできた。

(6) 教育環境

① 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	施設・設備は、整備されているか	3
b	防災に対する体制は整備されているか	3

② 状況及び課題と改善策

- a. 校舎は老朽化してきているものの、必要に応じ各所の修理を行っている。  
令和4年度においても、eラーニングプラットフォーム（Hondana）を利用したオンデマンド形式による遠隔授業やライブ配信を稼働させ、自宅からもリアルタイムで講義を受講できる環境を設けて体調不良等で対面授業に参加できない学生への負担軽減を図った。
- b. 防災体制も整備されている。また、自然災害があった場合の学生の安否確認の体制（緊急連絡用メーリングリスト、緊急連絡先名簿の作成等）についても整備している。また、消防法に定められた消防設備点検も毎年実施し、老朽化した誘導灯の更新も実施した。

(7) 学生の受入れ募集

① 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	学生募集活動は、適正に行われているか	4
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
c	学納金は妥当なものとなっているか	4

② 状況及び課題と改善策

- a. 学生募集活動は、適正に行われている。  
令和4年度学生募集活動については、学校・入試案内パンフレット、ホームページ及び進学情報サイトの「スタディサプリ進路」を通じて実施し、資料請求総数は761件/年であった。対面での学校紹介の機会としては、入試説明会、オープンキャンパス（8月）を実施し、ホームページ上で学校紹介や模擬実習の動画を掲載し、希望者によるZoom面談なども随時実施した。  
なお、本校は2024（令和6）年度以降の入学者の募集を停止し、令和7年度で閉校の予定であるため、今後の募集活動は実施しない。
- b. 学生募集活動は、新入生の入学動向によって適正に行われていることが確認でき、パンフレット、ホームページ上で教育の成果も正確に伝えられている。
- c. 平成31年度の入学生から5万円増額した以降は、据え置いたままである。本校の学納金額は近隣の臨床検査技師養成校と比較して、入学生に配慮されていると思われる。

(8) 財務

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
c	財務情報公開の体制整備はできているか	4

② 状況及び課題と改善策

- a. 令和4年度においても、事業計画は実施事業の検証及び収支計画を確認した上で、中長期計画の事業意義や優先度、緊急性のある案件に限定し、学校法人全体の単年度収支を勘案して実施されており中長期的な財務基盤は安定している。
- b. 充分ではないものの優先順位を考慮し有効性かつ妥当性を考慮した予算・収支計画が行われている。
- c. 財務情報公開の体制整備はされており Web にも公開されている。

(9) 法令等の遵守

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
b	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3

② 状況及び課題と改善策

- a. 個人情報の保護の対策はとられており、第三者への情報提供についても上長の決裁を仰いだり、授受記録を残すなどの配慮がされている。
- b. 平成30年度から年度毎に学校自己評価報告書をホームページ上に公開している。令和2年度から校長、および外部関係者から構成される学校評価委員会を設置し、前年度に対する学校自己評価報告書案を学校評価委員会が検討し、公正な自己評価の実施と改善すべき問題点の抽出を行い公表し、問題点の改善に取り組んでいる。

(10) 社会貢献・地域貢献

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
b	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2

## ②状況及び課題と改善策

### a. 【施設・設備の活用】

オープンキャンパスなどの他学部でのイベント実施時に、本校所有の検温カメラの貸し出しを行った。また、2月4日に本校の施設（教育2号館301教室）を、附設高等学校・中学校合格者説明会の会場として提供した。

### 【臨床検査技師国家試験解析研究チームへの参画】

わが国の臨床検査技師養成教育の質向上と精度の高い国家試験の実現を促すことを目的とし、令和3年度から山陽女子短期大学教員を主とする国家試験成績解析研究チームが全国の養成校（任意：令和3年度国家試験では39校が参加）の成績を解析・フィードバックを行っている。令和4年度12月から、本校教員（吉野）がこの研究チームの正式メンバーとなり、データ解析への協力とより適切なデータ収集・解析を行うための検討に参加している。

### 【医学科学生の新型コロナウイルスPCR検査の検体採取協力】

令和4年9月、医学科1、2年生の病院実習前の検査に協力するため、教員4名（吉野、糸山、小森、福満）が久留米大学教育1号館にて検体採取とその補助を実施した。

- b. 令和4年度8月に、3年ぶりのオープンキャンパスを実施した。2年生を中心に一部の1年生、3年生が課外活動として企画、準備に携わり、来場者の案内や実習実技の体験コーナーでのガイドを行い、来場者には大変好評であった。

まだ新型コロナウイルス感染対策の影響を大きく受けた年であり、以前は毎年参加していた子宮頸がん予防の街頭ボランティア活動の参加には至らなかった。学校の方針として新型コロナ感染対策の一環で学生のアルバイトを原則中止としたこともあったため、やむを得ないと認識している。ただし、大学病院の看護のお手伝いサポートについては、感染が少ない時期には求めに応じて活動を行っていた。

## 資料1 令和4年度 業績

### 【原著論文】

1. Osaki K, Sogabe Y, Seki R, Nakamura T, Morishige S, Oku E, Takata Y, Mouri F, Yoshimoto K, Nagafuji K\*, Okamura T. Factor VII Deficiency Due to Compound Heterozygosity for the p.Leu13Pro Mutation and a Novel Mutation in the HNF4 Binding Region (-58G>C) in the F7 Promoter. Kurume Med J. 2022. 67(2.3):83-89.
2. Tanamachi C\*, Iwahashi J, Togo A, Ohta M, Miura M, Sakamoto T, Gotoh K, Horita R, Kamei K and Watanabe H. Molecular analysis for potential hospital-acquired infection caused by *Aspergillus tubingensis* through the environment. Kurume Med J, in press.
3. 吉野 千代\*、大山 哲司、糸山 貴子、棚町 千代子、武谷 三恵、古川 恭治、西 昭徳. 学内成績を用いた臨床検査技師国家試験点数の予測モデルに基づく学習指導. 臨床検査学教育 印刷中.

### 【著書】

1. 関 律子\*、岡村 孝. 新リンパ腫学-基礎・臨床の最新動向Ⅱ LPLの病態形成と分子腫瘍学的異常. 日本臨床. 81.増刊号:65-69. 令和5年3月

### 【学会発表】

1. 福満 千容\*、真田 咲子、小笠原 幸子、津田 尚武、牛嶋 公生、秋葉 純、矢野 博久. 分化型子宮類内膜癌における CXCR4 発現と癌浸潤能の病理学的検討. 第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 令和4年7月14日(久留米シティプラザ)
2. 吉野 千代\*、大山 哲司、糸山 貴子、棚町 千代子、武谷 三恵、古川 恭治、西 昭徳. 学内成績を用いた臨床検査技師国家試験点数の予測モデルに基づく学習指導. 第16回日本臨床検査学教育学会学術大会. 令和4年8月18日(埼玉医科大学).
3. Fukumitsu C\*, Kojiro-Sanada S, Ogasawara S, Tuda N, Akiba J, Ushijima K and Yano H. Pathology of CXCR4 expression and cancer invasiveness in differentiated endometrial carcinoma. International Gynecologic Cancer Society (IGCS) 2022 Annual Global Meeting. 2022. 9.29.-10.1.(Hybrid, New York).
4. 関 律子\*. 形態報告コメントの有効活用～細胞の特徴を理解してもらう表記とは. 第56回日臨技九州支部医学検査学会. 令和4年11月5日(久留米シティプラザ).

5. 川原 梨奈\* (学生) . 本校の特徴と自分の目指す臨床検査技師像について.  
第 56 回日臨技九州支部医学検査学会 学生フォーラム. 令和 4 年 11 月 6 日 (久留米シテ  
ィプラザ)

**【学位取得】**

博士 (医学)

1. 棚町 千代子 令和 5 年 3 月 1 日取得  
学位論文題目 : Molecular analysis for potential hospital-acquired infection caused by *Aspergillus tubingensis* through the environment.

修士 (医科学)

1. 糸山 貴子 令和 5 年 3 月 31 日取得  
学位論文題目 : エチレングリコール誘導腎障害モデルにおける近位尿細管の微細変化.
2. 吉野 千代 令和 4 年 3 月 31 日取得  
学位論文題目 : 学内成績による臨床検査技師国家試験点数の予測モデルの作成.